

## 第5回たかす認知症行方不明者搜索訓練を、Withコロナで参加者を制限、42人の参加で11月22日（日）、図上認識で実施。

コロナ禍の自粛生活で認知症との関係が懸念されるなか、第5回たかす認知症行方不明者模擬訓練を開催しました。 概要は以下の通り。 （司会 山本直子 高須社協副会長）

\*日時 令和2年11月22日（日）午前9：30－11：30

\*場所 高須市民センター講堂

### 1, 5回までの訓練の経緯と協力のお礼、今後の展望（香月英彦 高須地区社協会長）

高須地区の高齢化率は、32.1%全国国的には、2025年には、団塊の世代が75歳以上となり認知症も高齢者も5人に1人と予想されている。こうした現況で、コロナ禍フレイル対策も含めて対応が急務である。

2016年の第1回以来、地域と行政での連携をしながら、また年間12回のDr.末吉講座や北九州市立大学や企業も加えた研究学習(たかすりビングラボ)も開設して続けている。今回2020年には、パンデミックス(世界的な流行)新型コロナウイルス禍で制限されながらもいかにして開催するかを検討。

○安全MAPで検証 ○見回りの機能や連絡機能のオンライン化や2030年を目指すSDG'sとの連動も考えていきたい。

○社協では、「見回り活動」や「たすちょこっと応援タイ」で生活支援する中で、認知症情報に注意している。

5年間ご参加、ご協力ご参加いただいた多くの皆さまにこころからお礼申し上げます。

### 2, 年々増加傾向にある行方不明者の搜索の依頼（川口和彦若松警察署生活安全課長）

行方不明者の搜索依頼は、年間に88件ほどあり15件が行方不明、ご家族からの依頼と通報による捜査があります。近隣バス停で見つかる方、タクシーで遠くまで行かれる方、側溝や川にはまるかたなどいろいろなケースがあります。いなくなる方の日頃からの分析をしておいて小さな輪を大きな輪に！緊急な通報に支援をお願いします。



また、認知症の方にはGPS機能付きの携帯保有を推進しています。

### 3, 救急体制に連絡を（濱崎哲也若松消防署予防課予防係長）

行方不明者対応は、警察ですが、負傷など救急につながるケースの場合☎582-3811へ連絡をお願いします。

また、発見時は、119連絡。火事か救急か、事案の日時・場所・内容・年齢・連絡者など明快をお願いします。

緊急の場合口頭指導による応急処置もあります。



#### 4、コロナ流行下のメンタルヘルス

コロナ禍の自粛生活が、うつや認知症のきっかけにも?! 正しく恐れましょう!  
(末吉信之脳神経外科院長)

2011 東日本大震災級の新型コロナウイルス禍で不安・恐怖・脅迫的行動が出現。イライラ落ち着かず、家庭内不和、夜眠れない、コロナでは?と不安、薬・アルコール依存など。

「自粛生活」を誤解して、家に潜んでうつ病や認知症に変異してしまうかたが多い。

それでも結核が不治の病だった時代に比べると新型ウイルス対応は進んでいる。感染症の専門家でもない方の忠告やマスクのあおりなどに乗らず、正しく知り、恐れましょう。

ワクチンへの期待も過大評価せず、規則正しい生活、現在の生活の中でできること、「園芸」など趣味の生活や人とのつながりを考え、「散歩」「ウォーキング」などの軽く動くことを見つけ、今できることをやりましょう。



#### 5、東西南北4地域別で、図上訓練

##### 搜索活動の検証～地区別の安全MAPで搜索拠点を検討



**東班** ①的確な情報収集 ②地図を6分割担当を決める ③青パトと連動させる

**西班** ①日頃のご近所づきあいで情報収集②住民連絡網作成 ③ラインで情報共有

**南班**  
①立ち回り先予想:サンリブ、公園、バス停コンビニ・・・など ②近隣住民の情報収集の困難さを解消したい ③救護でAEDの設置場所確認を行おう

##### **北班**

① 迷い人立ち寄り先:公園・バス停・前に住んだふるさと(個人情報ネック)

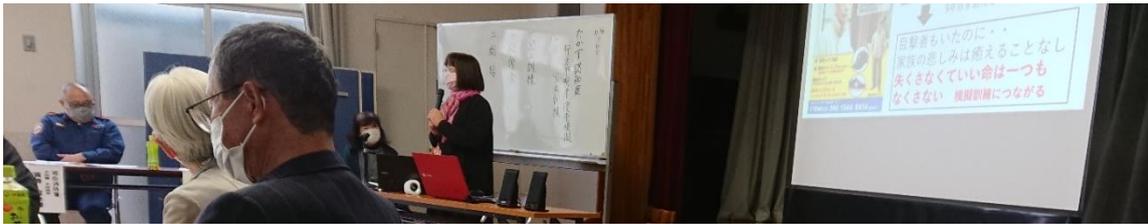
② SOSネットワーク連絡網の一斉通達の方法を学習したい

③ ラインなどの利用で



## 6, **セミナー**：認知症ご本人の思いとご自身の活動について

(中村真理子地域活動コーディネーター)



### 認知症は、自分事：認知症のかたの個性を大切に

- コロナ禍でも認知症の人も自分の意志で外出して楽しみたい
- 見守りでリスクを小さくし、認知症のかたの思いを叶えたい。いずれ私も・・・
- 認知症捜索訓練のきっかけは 2011. 5. 11 小倉南区の田中紀行さん (71) 9年手がかりなし。いまでも自宅で奥さんが待つ。
- 認知症に対しての認識の誤りは、周りの思い込みと偏見によることが多い。  
認知症の人もいろいろな思いがあり行動していることを考えてあげる事が大切。  
「助けてあげる」私と「助けてもらう」認知症の人でなく自分の事として認識。
- ビデオ観賞：認知症の方自身が司会をして患者数人の思いを伝えた。
- 認知症対処社会→認知症フレンドリー社会 本人に寄り添い共生社会を運営  
認知症とともに生きる希望宣言！
- ウイズ認知症へのギアチェンジ・・・認知症条例も6市で制定・
- 全国の認知症行方不明者 2019年 ～17,479人・未確認 245人・死亡 460人 など。
- 高齢になればだれでもなる認知症・・・予防は備えのために・・・はじめから重度はない。

## 7, 老いを支える家族の会 (中崎新次郎氏)

認知症の方、家族、知人など一緒につながって考えて生きましょう。

## 8, 認知症訓練と勉強会の継続で地域の力を！ (坂本毅啓北九州大学准教授)

認知症をテーマに地域の健康について真剣に取り組まれておられますことに敬意を表します。

- 1) 今後の事業運営もいろいろな人と勉強会をしながら意識を高めていく事が大切。
- 2) コロナ禍をチャンスにするには、「今立ち止まって次の展開を再考」
- 3) 自粛生活には、規則正しい生活と自分を生かすことを始めましょう。

そこで、地域の活動を支援する組織「たかすりビングラボ」の活動も今回懸案のひとつとして捜索活動に「一斉連絡」体制を SNS、オンラインを使った仕様を考えて実践できるようにご一緒に考えたいと考えています。



(文責：香月英彦)